

第9回洋上風力発電ゾーニング協議会 議事概要

日 時：令和2年12月14日（月）14：30～15：30

場 所：久慈市役所車庫棟会議室2 及び ZOOMWEB 会議室

出席委員：三宅座長※、北澤委員※、浦委員※、佐野委員※、森山委員※、山田委員（代理：二ツ神氏）、皂委員（代理：濱欠氏）、山本委員（代理：下向氏）、川代委員※、山王委員（代理：一田氏）、外久保委員、今井委員※、藤田委員、佐藤委員、高橋委員、池田委員、嵯峨委員（生活福祉部長）、嵯峨委員（企業立地港湾部長） ※は ZOOMWEB 参加者

1. 議事

【市長挨拶】

今年度が最終年度であり、協議会でのご意見をいただき、実効性のあるゾーニングマップを作成したい。国での洋上風力を取り巻く環境は大きく変わっている。持続可能な社会の構築には世界各国との取り組みとあわせて基礎的自治体や民間レベルでの取り組みを着実にやっていくことが重要である。これらの社会的背景や久慈市の経済発展を鑑みて、関係者のご理解を得ながら久慈市の大規模洋上風力を実現したい。

【議事1】 第8回協議会の振り返り

【議事2】 今年度の実施状況

【議事3】 今後の予定

2. 主な意見等

【議事1 関係】

特になし。

【議事2 関係】

(1) ワークショップについて

- ・ワークショップの際に、基数や場所、係留方法など風車の設置について、事業者にどのように説明したのか。
- 場所や範囲について、机上に地図を用意して具体的に説明した。
- ・ワークショップはどのようなメンバーで構成されたのか。
- 地元の漁業者のみで、漁船漁業者と漁協から参加いただいた。
- ・今後の検討にあたっては底曳きの漁業者にも意見をきいてほしい。

(2) 視察

- ・O&Mへの誘致について、由利本荘市では資金調達、設計、EPCなど、あらかじめ想定して、この海域に入っている業者の誘致を考えているのか。
- 方々に聞いて、意見交換しているとのこと。いろいろ聞いて模索しているようだ。
- ・設置場所が4マイルから3マイルに変更になったが、初めに4マイルで検討した理由は。一般

的には陸に近いところから検討すると思われる。

→発電事業者は、風況がよいところということで4マイルにしたとのことであった。陸寄りには砂地で、あまり漁がされていないとのことで、3マイルに変更となった。

→4マイルは浮体式の可能性もあるがそれでも良いということだった。風況のほかに景観のこともあって、4マイルで考えたようだ。

→由利本荘市では、当初、発電事業者が先行して事業化検討をなされていた。事業の受け入れとして市域における事業のO&Mの検討、先進地への（海外）視察をおこなっていた。また、反対運動も起きて行政としての対応が必要ということであった。O&Mについては、久慈市も検討していきたい。

- ・由利本荘市で反対意見もあるとのことで、久慈市でも漁業関係者以外にも幅広い市民に公表する必要があると思った。仁賀保高原の景観は、風車を意識しなくても鳥海山を見られるところもあるというメリハリがあるのが重要と感じた。

(3) 景観市民アンケート

- ・アンケート調査の回答数64名は。

→59人が面談、5名がアンケートボックスで回答いただいた。

- ・コペンハーゲンが3km沖なのであるが、久慈市のフォトモンタージュは5.7kmで、違いがある。それは示したか。

→ポスターに説明を加えている。

(4) 関係者ヒアリング

- ・これまでのヒアリング先以外にも聞いた方がいい団体などがあれば、委員からもご教示いただきたい。

(5) 魚礁調査

- ・当日、調査の船に乗った。漁具が絡まって魚礁の機能をはたしていないという話もあったが、魚は集まっていた。かまぼこ型魚礁の周りは漁をしている人も多く、頻りに利用されている海域だと感じた。

- ・構造が単純なものより複雑な方が確認された魚の数が多かったとのことだが、海外の着床式風車の例でも複雑なほうが魚礁効果は高いようだ。ただし、浮体式だと複雑な形になりにくいので、国で浮体式の調査をしたなら整理してほしい。ワークショップでも魚礁効果に期待する声も多いので、早い段階で獲りたい魚などに応じた対策を示した方がよい。後から、聞いていない、ということのないようにしてほしい。

- ・今後どういう調査をしたらいいか、どこに聞けばいいのかを整理するとよい。

- ・先行する海外の例などは、久慈市の事業で調べるのではなく、国の方で整理し、データベース化して公表していただくよう、お願いしたい。

→もっと今後情報が出てくると思うので、我々が調べること、専門家、有識者に聞くということなどできることは細かく拾っていきたい。

【議事3関係】

- ・パブリックコメントは年始年末を挟むので、どれくらいの人に見てもらえるかは不安である。市の方で、このような例での反応はどうか。場合によっては、延長することも検討した方がよいのではないか。
- これまでこのような例はない。年末・年始の休みを22日間から差し引いて、市の規定にあわせてやりたい。

【その他】

- ・環境省の新たな公募事業に採択された。ゾーニング事業では導入可能性を検討するため、ゾーニングマップを作ってきた。当事業は、ゾーニングの可能性のある地域で各種調査を行っていく。令和2年度は文献調査を行っていきたい。令和3年度以降は海底調査など、令和5年度まで4年度間の実施となる。洋上風力導入に向けて、皆様の一層のご協力をお願いしたい。
 - ・環境アセスを実施するのは発電事業者であると思うが、この事業はアセスのプロセスとも関係してくるのか。
- できるだけ早く導入できるように、事業者にも、アセスに活用してもらえるように考えている。
- ・事業者との調整が必要となるだろう。
 - ・議事1のロードマップとの関連について、整合が取れるかを確認してほしい。
- 次回資料を提示する。
- ・公募事業でやることを整理してほしい。
 - ・市民意見も漁業者意見も協力的で良いデータばかりだが、本当に問題がないか疑うことも必要ではないか。場所によってはこういった問題も起こりうる、ということを検討した方がよい。